

神奈川県安全防災局 局長 和田久様祝辞

平時、災害時双方のLPガス供給体制と一緒に整備していこう

古川会長をはじめとした神奈川県LPガス協会様には、工業保安行政におきまして、また県民のエネルギーの源の一つということで、日頃からいろいろご尽力いただいております。誠にありがとうございます。さらに、神奈川トラストみどり基金への支援などでも広くご理解ご協力をたまわっており、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

4月14日に起きた熊本地震は、1,500回も余震が続いたかつてないタイプの地震でした。土地が地盤ごと崩れるということであれば、水道管もガス管もないだろうということになります。場合によっては、道路も橋も落ちてしまっている非常に厳しい災害が、報道されています。

地震で、都市ガスは10万800世帯が供給停止になり、復旧に4月末までかかりました。おおむね半月です。一方、LPガスは今回の地震においても、直ちに点検・復旧に入ったようで、いわゆる漏えいとかガスに起因する事故はなかったと聞いています。その辺は、自ずと都市ガスとLPガスとの差であるかと思います。

余震の恐怖の中で、食事もできないし、トイレにもお風呂にも入れないということでは大変なので、ライフラインの確保・復旧は非常に大事です。しかし、そのときにガスがあれば少なくとも温かいものが食べられます。また水ではないシャワーが浴びられる。場合によっては暖房もできるということで、大きく貢献します。

だから、災害が起き、1日、2日経てば、電気やガス、水道が非常に重要になってきます。そのときに、災害に強い機動的なエネルギーがあり、真っ暗闇の中で灯りがともって、温かいものが食べられるということは、生活、あるいは避難の根本につながります。

LPガス、都市ガスにはそれぞれの特性やすぐれた点がたくさんあり、これからもずっと共存していくことでしょうから、大事なことはそれぞれのメリットを生かしながら発展していくことであろうと思っています。

そんな中で、本県におきましては、LPガスの点検とか、避難所への供給体制の整備ということで、平成25年度から実態調査などをお願いして、一緒になってやっていこうとしているところです。

平時における安全で安心なエネルギー供給をお願いするのはもとより、LPガスは万が一の場合にも、県民の生活の確保、また公共的な意味でもご活躍いただけるエネルギーだと思っております。いずれにせよ、まずもって安全第一ですから、平時の場合、また災害

時の場合の両方含めて今後ともいろいろ連携させていただき、一緒に取り組んでいただければありがたいと思います。